

## カナダ出張報告

国際戦略室

昨年の10月に案件形成の一環として、カナダ・アルバータ州のカルガリー市に出張しました。この出張は、カルガリー大学所属の水処理関連の研究機関であるACWA (Advancing Canadian Water Asset) とJSの連携の可能性を模索するためのものでした。

今回の出張では、ACWAのラボ、カルガリー大学をまず訪問し、続いて現地視察として都市部や郊外の下水処理場、最後にカルガリー市を訪問しています。

### ACWA ラボとカルガリー大学の訪問

ACWAが行っている研究は独自で興味深いものでした。ACWAはカルガリー市が保有する下水処理場内に自身の研究施設を保有しており、特に下水再生水の有効利用や下水処理水が生態系に与える影響に焦点を当て研究を行っているとのことでした。また、訪問したカルガリー大学では大学の経営陣や教授陣に出迎えられ、日本の技術や今後のJSとの連携等について議論が弾みました。

### 課題となるカナダの下水処理事情

現地視察により明らかになったのは、カナダの都市部が優れた下水処理システムを持っている一方で、郊外では未だにラグーン方式が主流であり、未処理のコミュニティーも多く存在することでした(写真1, 2)。写真2の通り、まさか先進国でラグーンを見ることがなるとは想像しておりませんでした。こういった郊外や地方における汚水処理は、近年のSDGsや環境意識の向上、移民の増加による人口の急増、カナダ全土での一律の排水基準の導入等によって、カナダにおける大きな課題となっています。



左:写真1 最先端の下水道システム(MBBR法: Moving Bed Biofilm Reactor)



右:写真2 郊外のラグーン

### カルガリー市への訪問とプロジェクトの展望

カルガリー市への訪問では、下水処理場の見学や市の関心事についてプレゼンテーションとディスカッションが行われました。見学した下水処理場では日本に無い機器や設計方

法に触れ、定期的に海外の知見や技術を取り入れることの重要性を感じる一方で、要所所所で日本の技術の導入が期待される状況を確認しました。

### まとめ

カナダ出張は新たな国際展開の可能性を広げる一歩となりました。今後の協力を実施していくため 1/16 日に JS とカルガリー大学は覚書を締結しました。カナダ市場の活気と JS の先進技術が結びつくことで、水処理分野での国際協力が一層進むことが期待されます。<sup>1</sup>

この出張は、過去に JS が国際業務で縁ができた民間企業からの紹介で、ACWA 側が日本の小規模下水道技術に興味を持ち、JS との連携を検討したいというオファーがあったため実現しました。国際業務では予測できない出会いが多い中で、広範なネットワーク作りとその維持が重要であることを改めて実感しました。

### 番外編

最終日少し時間が余ったので、市内の散策(写真 3,4)と市に近く、著名な観光エリアでもあるバンフ国立公園(写真 5,6)を訪問しました。カルガリーは幾何学的な高層ビルと美しい自然が共生しており、近未来都市といった印象を受けました。

バンフ国立公園は氷河が解けたことで形成されたコバルトブルーの美しい湖を見ることができ、日本とはまた種類の異なる自然の美しさに触れることができました。



写真 3,4 カルガリー市内

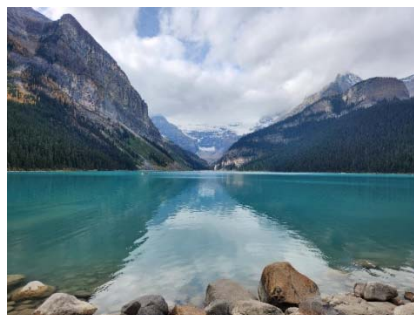


写真 5,6 バンフ国立公園周辺

<sup>1</sup> JS とカルガリー大学は 1/16 日に覚書を締結しました。  
<https://www.jswa.go.jp/topics/2024pdf/20240207-2kisva.pdf>